

# 2022年度 焼津福祉文化共創研究会活動計画（案）

## 活動テーマ：わかる・見える実践活動で“福祉文化としてのご近所福祉”を探る

改めて、市民主体で取り組んだ、尊い実践講座の3年間の取り組みの総括から、次の「10の地域課題」を浮き彫りに、本会が誕生した。

- (1)語れる地域環境の醸成(世代を超えた地域総合型学習形態の仕組みづくり)
- (2)「地縁組織」(お互い様)と「志縁組織」(使命感)の融合による地域づくりの取組み
- (3)「専門性」と「市民性」の融合(管内福祉施設連絡会とのネットワーク化と地域介護力アップ)
- (4)当事者組織化の支援
- (5)具体的な地域の生活支援策の把握
- (6)管内のささえあいの仕組みづくり
- (7)総合的地域支援組織の再構築(トータルコーディネート機能)
- (8)地域を「見える化」する広報啓発
- (9)制度施策を理解する地域福祉教育環境の醸成
- (10)ご近所福祉の復活

厳しいコロナ禍下、「共助・近助の地域を再構築」を目的に、活動の原点をもとに、市民有志で結成した本会の活動は、尊い「焼津市赤い羽根共同募金地域福祉促進助成事業」と「静岡県コミュニティづくり推進協議会・コミュニティ活動集団助成事業」により、地域住民に検証してきた活動を報告し、意義ある活動を展開し、ここに3年間活動を維持できた。

### ◇1年目(2019年度)

\*活動テーマ「港地域の“ご近所”を切り拓く 集まる居場所で地域ぐるみのささえあいを検証する」  
約5,000世帯をもって組織化されている「港地域づくり推進会」(第14・23自治会)管内において、今まで、地域や個々の人々のつながりの中で、気兼ねなく集まり、会話を交わし、ふれあい交流し、普段の拠り所としている「居場所的機能」を持つ55の既存の各種団体・グループ)を把握し、「集める居場所から集まる居場所」を課題提起出来た。

### ◇2年目(2020年度)

\*活動テーマ「港地域のご近所福祉を切り拓くパート2 一協働による地域課題解決を探るー」  
1年目に取りまとめた結果をもとに、さらに把握に努めるとともに、管内関係団体や住民に機会あるごとに情報提供し、改めて、こうした既存の団体グループの様々な取り組みを地域住民が共有し、積極的に地域参加する機会を呼び掛け、ご近所福祉その意識と実態調査に取り組み、地域で顔の見える“近助”的関係づくりができる「協働による地域づくり」を働きかけた。

◇3年目(2021年度)は、活動テーマを「港地域をつなぐ・ささえあう“ご近所福祉”を創る」として、この2年間にわたり考察・実践してきた活動のプロセスから、改めて、港地域の現状を踏まえて、地域を家庭化し、世代を超えて、誰もが地域づくりに関われるご近所を“地域の居場所”していく活動に取り組み、子ども対象に管内関係団体・学校関係者の協力により、尊い子どもたちからの意見を大人社会への提言としてまとめることが出来た。

◇4年目(2022年度)は、活動テーマを「わかる・見える実践活動で“福祉文化としてのご近所福祉”を探る」として、これまでの3年間の活動から浮き彫りにした地域課題を改めて再考しながら、真の問題解決に向けた具体的な検証を試みる。

### 1. 活動の着眼項目

- (1)世代を超えて「地域ぐるみの居場所「ご近所福祉の構築維持」を創る「地域総合型公開学習」の場
- (2)常に、地域社会に向けた課題提起と協働による活動ができる場
- (3)「専門性と市民性の融合」を基に、「協働」による実践的課題解決改善に取り組む場(地縁団体と志縁団体の融合)
- (4)3年間の「調査結果・考察」から浮き彫りになった課題を議論し合う場(コーディネート資質の向上)

- (5)地域コミュニティの活性化に向けた仕組みづくりを「理論と実践の融合」により継続的活動に取り組む場  
(6)常に、地域社会に積極的に活動が展開できるように「活動財源確保」に努める

## 2. 役員会の開催

- (1) 実務型役員会運営に徹し、一丸となって、活動の進捗状況管理と検証に努める。
- (2) 定例研究会開催日の前に、「活動計画」に基づく運営について、協議の場を持つ。
- (3) 様々な地域実践活動から、情報を共有し、「地方発福祉文化の創造」を問題提起する。

## 3. 定例研究会の開催

- (1)原則、毎月第2土曜日、18:30～21:00を定例開催日とする。(別添活動計画表参照)
- (2)各種活動の状況に応じて、臨時研究会をもって、円滑な運営に努める。

## 4. 事業関連部会設置と開催

- (1)本会活動の活性化と円滑に展開するために、「事業別部会」を設置して運営することとする。
- (2)これまでの3年間の活動の取り組みから、「調査研究部会」「広報部会」「研修部会」を必要に応じて設置する。
- (3)各部会で議論した内容は、活動の成果につなげるよう、その都度「定例研究会」で、さらに議論を深める。

## 5. 主な活動の取り組み

### (1)調査研究事業

#### ①「地域ぐるみの居場所」検証事業(継続事業)

\*2019年度実施の「検証事業」の継続的取り組みとして、55の団体・グループをさらに掘り下げ、項目白紙欄の補充等を含めて、管内における「地域ぐるみの居場所」の把握に取り組む。

\*「紹介集」の更なる充実と共に、管内の「居場所の意義」を推進する努力をする。

#### ②「ご近所福祉その意識と実態調査」事業(継続事業)

\*2020年度実施した調査結果及び考察を、「静岡福祉文化を考える会」との協働により、さらに議論を深めて、地域の実情把握による課題解決に向けた取組みをする。

#### ③「“福祉”ってなに? 244名の子どもたちに聞きました調査」検証事業

\*2021年度実施した調査結果及び考察をもとに、学校教育や地域行事等において、「若者発 ご近所福祉かるた」の有効活用と意見交換を試みる。

④長引く厳しいコロナ禍下における生活の孤立化現状と地域社会全体での取り組みを地域社会に働きかけ、改めて「共助社会の再構築」を検証する。

### (2)研修事業

#### ①公開型研修会として「ご近所福祉検証研修会」の開催(継続事業)

\*これまで3年間取り組んだ「地域ぐるみの居場所検証」「ご近所福祉その意識と実態調査事業」「子どもから大人社会への提言」等から浮き彫りになった課題を活動テーマに、地域住民福祉教育教材として「若者発 ご近所福祉かるた」を活用し、地域参加を提起していく。

\*助成事業支援団体(県ごく推協・焼津市社協等)、県及び市行政関係方面に案内をする。

\*本会会員の提案をもとに、内容の工夫と具体的な役割分担をもって実現につなげる  
(進行・プログラム参加・運営演出・資料作成・広報啓発)

#### ②地域をつなぐ協働研修会

\*管内福祉施設連絡会との「地域支援」「生活支援」に関する協働研修会の開催

#### ③現場実践研修会

\*「若者発 ご近所福祉かるた」の活用による「近助」のあり方を学び合う機会を持つ(学校教育)。

\*地域コミュニティ組織または、福祉事業所・施設等における「近助」のあり方を議論しながら、地域ぐるみの

## ささえあいと地域参加を議論し合う

- ④調査研究考察報告研修会  
\*調査研究事業として取り組んだ結果を報告し、啓発研修の機会とする
  - ⑤会員による「地域との共生」テーマに、発表の機会を持つ。

### (3) 広報事業

- ①日本福祉文化学会 HP を主体に、静岡福祉文化を考える会ブログとの連動による本会プロブにより、広く、活動を通じた課題提起を発信していく
  - ②「焼津福祉文化共創研究会通信」の発行
  - ③積極的に、マスコミへの情報提供に努める

#### (4) 協働事業

- ①「管内福祉施設連絡会」との協働事業
  - ②「静岡福祉文化を考える会」との協働事業
  - ③「焼津市V連」との協働事業
  - ④管内各種団体・グループとの協働事業
  - ⑤管内学校教育及び社会教育領域との協働事業

## 6. 関係・団体との連携

- (1) 静岡県社会福祉協議会、焼津市社会福祉協議会及び近隣社協への情報提供・連携
  - (2) 「地方発 福祉文化の創造」の実践を基に、「静岡福祉文化を考える会」及び「日本福祉文化学会」との情報の共有と活動の「協働」を探る
    - \*各種事業の取り組みについての情報提供
    - \*各種事業の実践活動の共有
  - (3) 関連機関・団体、大学・専門学校及び管内学校教育・社会教育領域への情報提供
  - (4) 焼津市ボランティア連絡協議会との連携
    - \*定期総会出席
    - \*定期V連代表者会議出席と情報提供(通信配布)、問題提起による活動活性化の提言
  - (5) ふじのくに未来財団への情報提供
  - (6) 静岡県コミュニティづくり推進協議会への情報提供
  - (7) 管内福祉施設連絡会、地域包括支援センターとの連携と情報の共有
    - \*通信配布
  - (8) 港地域づくり推進会(事務局:港公民館)及び管内自治会(町内会)への情報提供
    - \*通信送信
    - \*各種活動状況報告
  - (9) 港地区民生委員児童委員協議会への情報提供
  - (10) 公益財団法人あしたの日本を創る協会への情報提供
  - (11) 公益財団法人さわやか福祉財団への情報提供
  - (12) その他、必要に応じて、関係機関・団体に情報提供

2022年度 焼津福祉文化共創研究会 活動計画 活動テーマ:「わかる・見える実践活動で“福祉文化としてのご近所福祉”を探る」 2022.3.26現在